

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号 41

I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇希望する進路が達成できる高校になっているか（学習・進路指導）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 先生は熱心に学習指導に取り組み、専門的な知識が豊富で授業内容について信頼ができるとの評価を得ている。 家庭学習時間の減少や生徒の32%、保護者の40%が学習塾の必要性を感じていることを踏まえた指導法について考える必要がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇希望する進路が達成できるよう学力の向上を目指し、授業の改善・充実を図り、小テスト・自宅学習・考査・模擬試験への取組を生徒の実態を踏まえ整理・充実させる。</p> <p>◇はつらつ講座・地域課題解決型キャリア教育などキャリア教育の充実を通して主体的に学ぶ力を涵養する。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 各学年部の取組を中心に、進路指導部が協力して学力の向上を図ると共に、特別活動部・進路指導部が各分掌の協力のもとキャリア教育の充実を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 授業研究の充実、定期考査や模擬試験等の結果の分析と学力向上に繋がるアクティブラーニングの研究・実践、入試問題研究会等への積極的な参加。</p> <p>(2) 「はつらつ講座」「地域課題解決型キャリア教育」等キャリア教育関係行事の充実。</p>	<p>(1) 生徒による授業評価、大学合格者数、対外模擬試験の全国レベルでの達成度。</p> <p>(2) 教員の各種研究会での発表や参加者数。</p> <p>(3) キャリア教育関係行事の実施回数・参加者数。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 授業評価や各種考査の結果などを基にした授業のさらなる充実。 キャリア教育やFRH事業を推進するための外部活力との積極的連携。 各種研究会への教員の積極的な参加及び発表。 	<p>①生徒の学力は向上したか。</p> <p>②生徒の進路希望を高めることができたか。</p> <p>③職員の取り組む姿勢に熱意が感じられたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○教師はアクティブラーニングやICTを取り入れた授業改善を進め、生徒が主体的に授業に関われるように努めた。 ○生徒は各キャリア支援プログラムに積極的に参加し、視野を広めた。 ○地域課題解決型キャリア教育、地域共創フラッグシップハイスクール事業、エンリッチ活動、模擬選挙、高校生議会等において、生徒は地域の大人とのディスカッションを通して視野を広め考えを深めることができた。 ▲学力向上に繋がるように授業改善に取り組んでいるが、大学入試にその成果が十分に現れていないのが現状である。 ▲生徒が地域で活動し地域の人々と協働する中で多くのことを得ていると実感するが、一部に過剰負担にならない配慮と中心メンバーの活動や成果を学校全体へ還元する機会や方策を考えていく必要がある。 	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングやICT利用に対する研究も進めながら、生徒の進路目標実現のために、生徒の実態に合わせた授業改善と指導の方策の整理・改善を行う。 従来の地域課題解決型キャリア教育に加えてフラッグシップハイスクール（ふるさと教育）の活動を有機的に結びつけ、市議会や市役所、NPOなどの外部活力の協力を得ながら、今年度の成果・課題を活かしてさらに効果が上がるよう、企画・実施していく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月10日

【意見・要望・評価等】

- ICTを活用した授業が積極的に行われており、入試改革に対しても先生方が研修を通して情報共有を行い、保護者に対しても情報提供を行うなど熱心に取り組み、相次ぐ制度変更にも迅速かつ適切に対応してもらった。今後も引き続き研究・研修を続けてほしい。
- 学習指導や進学指導に関して、変化の多い1年であったが、新しい試みを含め手厚い指導が行われていることが感じられる。
- 可児高校伝統の宅週記録は生徒と教員をつなぐ有効なツールであり、自宅学習の改善に加え教育相談等に活用してほしい。
- 先生に対する生徒の信頼感が高いので、生徒の自己効力感を高めるために、先生方から肯定的評価を生徒に発信してほしい。
- 生徒は自宅よりも自習できる場所を求めて塾に通っている傾向があり、そのため通塾率が高いように思う。主体的な学習姿勢を育てることが必要である。
- 今年度行った模擬選挙や高校生議会、エンリッチ活動や海外フィールドワークなど、大変充実した取組を独自に行っているため、このような取組を積極的に広報して志望者増加に繋げてほしい。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号

41

I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇礼儀正しい高校生を育成する高校になっているか。(生徒指導)	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> マナー・社会規範、服装・頭髪・に関する指導に対する肯定的評価が生徒96%、保護者90%と高い割合を示している。 いじめや差別に対する対応について、生徒の肯定的評価が84%と高い数値ではあるが、否定的評価が5%ある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者の一層の減少。 情報モラルに関わる問題の減少。 端正な身だしなみ。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者に対する指導を、教育相談とも連携して行う。 1年生は、早期に集中的に情報モラル指導を行う。 身だしなみ指導では職員全員でのチェックカード方式をとる。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 毎朝の遅刻者指導と呼出し指導	(1) 遅刻者延べ数 年間600回以下	
(2) 身だしなみチェックカードと個別指導	(2) 呼び出し指導 年間10件以下	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の全職員での遅刻指導 チェックカードによる個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻者が前年より減少したか。 ②制服の着こなしの適正化。 	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみでは、指導を受ける生徒がほとんどいなかった。 教育相談を要する生徒が継続的に遅刻をしている例はあるが、大半の生徒について遅刻について個人指導を行ったのは皆無であった。 生徒の訴えは、小さなことでもいじめの可能性を考え、組織で対応した。 ▲情報モラルについては、継続して指導が必要である。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>学校不適應や教育相談を必要とする生徒が増加し、今後更に、生徒理解に努め、早めの対応を行うことが必要であり、かつ個別対応がより一層求められる。情報モラルについても継続的な指導が不可欠である。また、自ら進んで挨拶ができない生徒もいる実態を踏まえ、本来のコミュニケーションを始めるきっかけとしての挨拶を促進していきたい。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月10日

【意見・要望・評価等】

- 最近では高校生ならこれくらいできるであろうと思われることができなくなっているのが現状である。人との接し方や思い込みに問題があり、対人関係のトレーニングが求められている。
- スクールカウンセラーと教員の連携がますます重要になっている。可児高校では教員が生徒の話を聞く体制ができていることが良い。とにかく誰かと話ができる窓口があることが、生徒にも教員にも重要である。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号 41

I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇交通安全教育に重点を置く高校になっているか。(生徒指導)	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・交通安全への取組に対する肯定的評価は、生徒96%、保護者90%と高い評価である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・自転車事故の減少 ・交通安全啓発活動の充実・通学路整備	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員の4班方式による登校指導と保護者の協力による登校指導 ・可児警察署や自動車学校との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) P T Aの方々と共同開催の登校指導 (2) 自転車点検、交通講話、集会指導	(1) 交通事故件数の減少 (2) 自転車の交通マナー違反者の減少	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・早朝に多くの職員・保護者の方の参加により登校指導を行い、挨拶、身だしなみを含めた指導を行った。 ・交通マナー徹底のため、マナー違反者に対する個別指導を導入している。	①交通事故件数が減少したか。 ②登下校時の交通マナーが向上したか(苦情や違反者は減ったか)。	(A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	○自転車マナー違反者については、可児高独自ルールの違反数は例年並みだが、交通法規違反は少ない。 ○可児警察署及び可児自動車学校と連携し、1年生を対象に交通安全教室を可児自動車学校で開催し、交通安全意識を高めることができた。 ▲交通事故件数は減少したが、駐車場から出る車との接触が多かった。一旦停止やドライバーとのアイコンタクトを心がけるなど、慎重な行動が必要である。 ▲歩道を自転車で走行する際に、対向する自転車や歩行者とすれ違う際に徐行したり、声をかけたりできない生徒が多く、まだまだ交通安全に対する意識が低い。	
12 来年度に向けての改善方策案	・交差点での一時停止や自動車の運転者とのアイコンタクトを徹底する。また、対向する自転車との接触が多いため、並列進行やスピードコントロールの指導も強化する。自転車は軽車両であり、被害者にも加害者にもなる意識を持つように意識づけを行い、更に安全運転、事故防止を心がけさせる。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月10日

【意見・要望・評価等】
・学校の交通安全指導については、事故が起きないようにきめ細かな取り組みが行われており、その努力に感謝している。事故件数減少という成果も出ており、今後も引き続きお願いしたい。
・運転者とのアイコンタクト、止まってくれた運転者に対する会釈等指導しているということだが、歩行者、自転車、ドライバーの意識向上のために学校と地域が共に取り組んでいく必要がある。